

# お知らせ

HAL をもちいた意思伝達装置（スイッチ）の  
公開実験 in 東京国際フォーラム（12月2日）の様様です。

<http://www.sakura-kai.net/wp/hals201212/>

難治性疾患克服研究事業の橋本班の要請で（眼を瞑って考えただけで、パソコンに入力できるようにしてほしい）で中島班分担研究者のサイバーダイイン社のみなさんが画期的な意思伝達装置を開発してくださいました。

実験に参加した岡部副会長は、身体のどこも動かさなくても、頭で考えただけで、パソコンに文字を入力できました。

しかも、他のスイッチより、早く正確です。

「伝の心」（入力ソフト）を音声にすれば、眼をつむっていても、耳さえ聞こえていれば入力できます。

つまり、TLSでも、遷延性・・・と言われているような状態でも、耳が聞こえて、意思がはっきりしていれば、正確な意思伝達が可能です。

来春の製品化を目指しています。

日本ALS協会理事 川口有美子

今朝（2012年12月3日）のNHKニュースで紹介されました。

昨日の橋本班、中島班合同研究発表会で、皮膚表面を流れる微弱電力をHALが拾って増幅し、意思伝達装置のスイッチとして使えることを紹介しました。HALはこれまで身体の動きを増幅する装置としての製品化が強く望まれていました。

実験に協力した岡部さんは、きっとそのまま機械を持ち帰りたかったですね。年内に製品化すると山海先生が言ってくださったので、若い開発者や営業戦略部門の皆さんエンパワメントに移りたいと思います。

班長の橋本さんには、ますますロビーで頑張ってもらわなければなりません。

川口 有美子